

「M-Cass」プレゼンツ～単式（一式）簿記の記帳ルールガイド（初学者用）

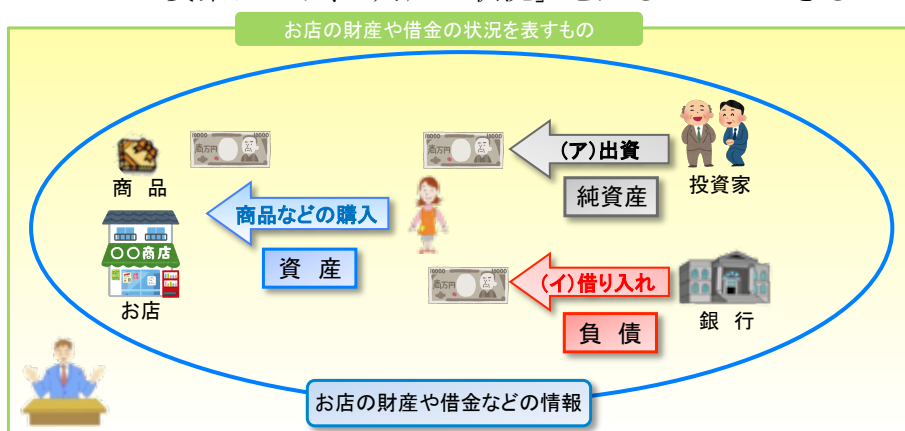
1. ゴールは決算書を作ることで財産の状況を知ること

(1) お店や会社の財産の状況を知るためには？

お店や会社を上手く経営していくためには、どんな情報が必要でしょうか？
1つの大切な情報として、お店や会社の「財産の状況」が挙げられます。

(2) お店や会社の財産の状況を知るために取引を3つに分類

簿記ではお店や会社の取引を①資産・②負債・③純資産の3つの要素に分けます。この3つの要素により、「財産の状況」を知ることができるのです。



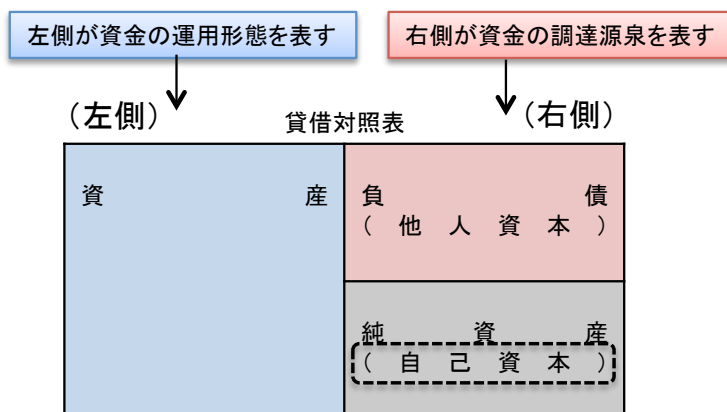
ここで、①資産は財貨などであり、②負債は義務、③純資産は元手と儲けを意味します。

2. 3つの要素から決算書が作られる

3つの要素に分類できたら、それぞれの要素がいくらなのかを計算し、その3つの要素を集めることで、下記のような決算書を作ることができます。

【ゴールとしての決算書】

「財産の状況」を知ることのできる決算書を「貸借対照表」といい、左側に①資産の要素を、右側に②負債と③純資産の要素を記載します。



3. 上記の構成から3つの要素が増加したときは、下記のように記載

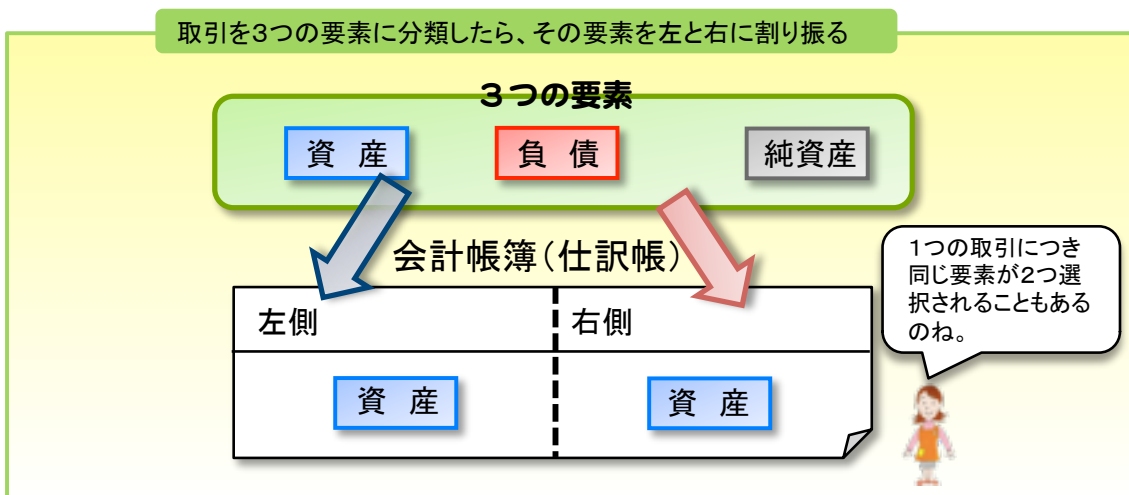
貸借対照表は左側に①資産の要素を、右側に②負債と③純資産の要素を記載します。そして、これら3つの要素は、下記のように真ん中から「左側」と「右側」に分けることができます。このため、①資産の要素の「左側」と②負債と③純資産の要素の「右側」は取引によって増加したことを意味します。

(左側) 資 産 (右側)		(左側) 負 債 (右側)	
増加	減少	減少	増加
	残高	残高	
		(左側) 純資産 (右側)	
	減少	減少	増加
	残高	残高	

4. 会計帳簿への記入は、「取引の原因と結果」を一度に記入する

(1) まずは取引を3つの要素に分けましょう

簿記では、「財産の状況」を知るために取引を3つの要素に分けました。このため、取引を会計帳簿に記録（記帳）する場合、①資産②負債③純資産の3つの要素のどれにあたるか分類し、その金額を記録します。その際、会計帳簿は、真ん中から左側と右側に分かれていますので、選んだ要素を左右に振り分けて会計帳簿に記入します。

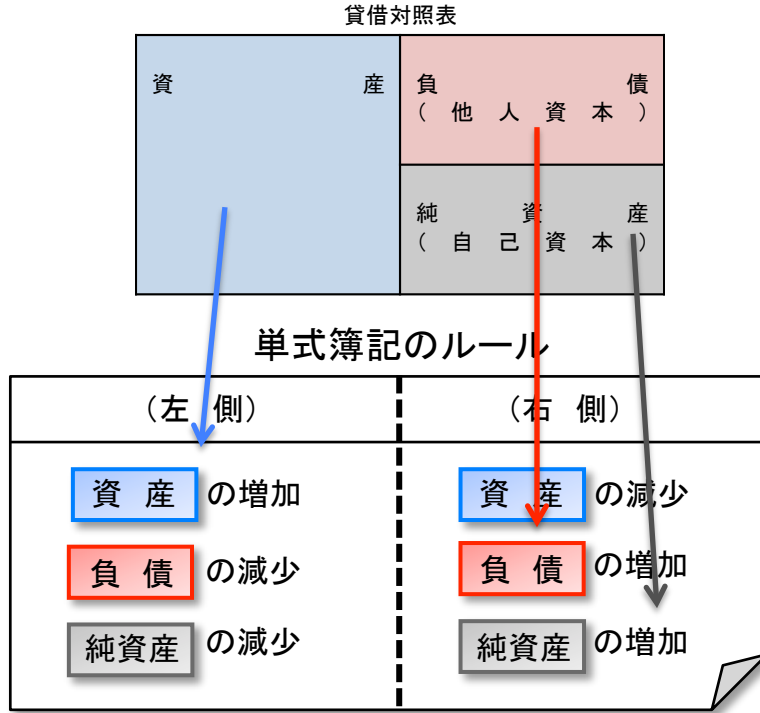


(2) どうして会計帳簿は左側と右側に分かれているの？

簿記の会計帳簿が真ん中から左右に分かれている理由は、一度の記録で取引の「原因と結果」を一度に記録するためなのです。

5. 安心して下さい、左と右のルールは決まっています

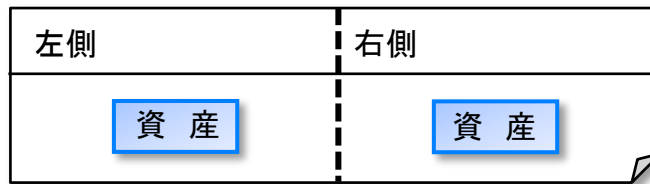
では、どの場合に、左側と右側に振り分けるのか
そのルールは、貸借対照表の構成と同じルールになっています。



6. 記録するときは具体的な名称に直してね

3つの要素だけで記録すると分からないので、具体的な名称で記録します。
例えば、お金は①資産の要素に分類されますが、具体的な名称として「現金」という名前で会計帳簿には記録します。

会計帳簿(仕訳帳)



資産勘定	負債勘定
現金	借入金
商品	純資産勘定
建物	資本金
器具備品	利益剰余金

7. じゃあ、さっそく仕訳をきってみよう！

ビジネスゲーム「M-Cass」では、最初の元手として各チームに1,000万円の元手が配られます。そこで、自分のお店や会社に1,000万円を出資してもらったとして、会計帳簿に記録してみましょう。

ステップ1 3要素のカードをきる

1,000万円の出資を受けたという取引を「取引の原因と結果」という観点から次のように分けることができます。

取引の結果：お金が1,000万円増えた

取引の原因：お金が増えたのは出資（元手）を受けたから

以上から、「お金」と「出資（元手）」の2つを3つの要素のどれにあたるのか分類します。



お金



元手

わーい。現金と元手が増えた！

資産

負債

純資産

さあ、どれに分類されるのでしょうか？
そうですね。お金は①資産に分類され、出資（元手）は③純資産に分類されますね。さらに、これら①資産と③純資産が「増えた」のか「減った」のかということを判断します。

ステップ2 きった2枚のカードを左と右に振り分ける

2つの要素（カードと考えてください）を選び、「増えた」のか「減った」のかを判断したら、簿記のルール表にもとづき、①資産は左側に、③純資産は右側に振り分けます。

単式簿記のルール

(左側)	(右側)
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加

以上より、会計帳簿には次のように2つの要素を記載します（2枚のカードをきると考えてください）。

左側	右側
資産	純資産

ステップ3 具体的な名称に直します

しかし、これだけでは具体的に何のかがさっぱり分かりません。そこで、この2つの要素を具体的な名称に直します。その名称については会計慣行などである程度決まっています。

資産勘定	負債勘定
現金	借入金
商品	純資産勘定
建物	資本金
器具備品	利益剰余金

①資産→お金→「現金」 ③純資産→出資（元手）→「資本金」

これで仕訳は完成です！

左側	右側
資産	純資産
(現金) 1,000	(資本金) 1,000

8. 実際に会計帳簿に記入してみよう！

では、今度は仕訳を会計帳簿に記入（記帳といいます）してみましょう。メインの会計帳簿として、「仕訳帳」と「総勘定元帳」の2つがあり、まずは「仕訳帳」に上記の仕訳を記入します。

(1) 仕訳帳に記載して取引の内容を分かるようにする

仕 訳 帳					(単位:万円)
日付	摘 要		元丁	左側	右側
	(左側)	(右側)			
	現金			1,000	
		資本金			1,000



上記の帳簿を見ていただくと、お店や会社の現金が1,000万円増えた(結果)ことと、その原因が出資によるものであることが分かります。

このように、仕訳帳という帳簿をみることでどのような取引が行われたのかが分かります。しかし、じゃあ、いくら収入があつて、支出はいくらなのか、そして、お金は金庫にいくら残っているのか、といったことの情報はこの会計帳簿からは分かりづらいため、もう一つの帳簿を用意します。

(2) 総勘定元帳に記載して3要素の残高を分かるようにする

総勘定元帳という帳簿を用意し、この帳簿に仕訳帳の金額を書き写します(これを転記という)。総勘定元帳は、3つの要素の具体的名称ごとにページが設けられており、仕訳帳に記入した3つの要素の具体的名称の金額を、総勘定元帳の各該当ページに書き写すことで、3要素それぞれの合計金額や残高を計算できるようにします。

仕 訳 帳					
日付	摘 要		元丁	左側	右側
	(左側)	(右側)			
	現金			1,000	
		資本金			1,000

資産の勘定 総勘定元帳					
現金			1		
日付	摘要	左側(増加)	日付	摘要	右側(減少)
	資本金	1,000			

仕 訳 帳				
日 付	摘 要		元 丁	
	(左側)	(右側)		
	現金			1,000
		資本金		1,000

純資産の勘定					
資 本 金					
日付	摘要	左側 (減少)	日付	摘要	右側 (増加)
				現金	1,000

以上、総勘定元帳の現金のページをみれば、現金が 1,000 万円入ってきたことと、手元に 1,000 万円残っていることが分かりますし、お店や会社に出資（元手がある）が 1,000 万円あったことが分かります。

資産の勘定

総 勘 定 元 帳



現 金					
日付	摘要	左側 (増加)	日付	摘要	右側 (減少)
	資本金	1,000			

純資産の勘定



資 本 金					
日付	摘要	左側 (減少)	日付	摘要	右側 (増加)
				現金	1,000


9. 貸借対照表を作ろう！

では、いよいよ決算書を作ってみましょう。ここでは、財産の状況を報告する貸借対照表という決算書を作ります。

作成の方法は簡単です。総勘定元帳に3要素の具体的な名称ごとに金額が記録されています。その総勘定元帳から金額（残高）を拾って書き写すことで作成できます。

資産の勘定

総勘定元帳




1

現			金		
日付	摘要	左側 (増加)	日付	摘要	右側 (減少)
	資本金	1,000			

純資産の勘定

資本金



6

資			本			金		
日付	摘要	左側 (減少)	日付	摘要	右側 (増加)			
				現金	1,000			

貸借対照表

(単位:万円)

会社名:

資産の部		負債の部
現金	1,000	借入金
商品		
建物		純資産の部
器具備品		資本金
車両運搬具		1,000
		利益剰余金

以上、これで決算書の完成です。

貸借対照表の右側をみれば、出資を受けることでお金を調達し、元手としての資本金が1,000万円あるということ、そして、左側を見れば、そのお金は現金として手元に持っているということが分かります。